三方海中公園の思い出

～指定３０周年を記念して～　夏梅晃一

・出会いと思い出

私と三方海中公園の出会いは、今から１６年前の夏の終わり、東京でサラリーマンだった頃のことです。お盆で福井の実家に帰省し東京に戻る途中、何となく福井の未だ見ぬ海を見たくなり、敦賀駅で下車、駅前発の路線バスにフラフラと乗り込み、常神を目指したのです。

バスが常神半島の狭い県道に差し掛かると、海側の席に座っていた私は、崖からバスが転落しないかと冷や冷やもので腰が浮き、いつもの車中での居眠りができなかったことを思い出します。それでも時折目を海の方に向けると、それまで見たことがないような美しいリアス式海岸が広がっていました。

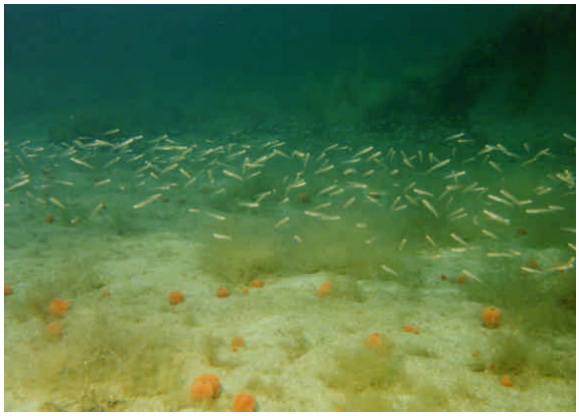
海岸線の美しさにいつしか恐怖心も薄れ、うっとりした気分で常神に着いたのですが、次のバスで引き返さなければならず、グラスボートに乗っただけのトンボ帰りで、後ろ髪を引かれながらゴミゴミした東京に空しい気持ちで戻りました。

常神半島神子方面より海中公園１号地区と御神島を望む(1986)

・再　　会

それから２年後、一身上の都合で福井に再就職した私は、幸いにも仕事で、あの美しい三方町の常神や食見の海が、若狭湾国定公園の三方海中公園地区に指定されていることを知り、三方の海に通うようになりました。

上野の駅前で買った中古のオンボロバイクにまたがり、荷台につけた山登り用のザックの中には、ウェットスーツに３点セット、５kg のウェイト、更には新宿ヨドバシカメラで新品を買った、当時の私の最も高価な所有物・３５ｍｍレンズの水中カメラ（ニコノス）等々を詰め込み、フラフラとしたコーナリングで通うのでした。



砂地に点在するグミカイメンとチャガラの群れ(1987.8 食見)

・海中公園地区指定２０周年記念事業・マリンセミナーと南研との出会い

それから４年後の平成３年、福井県は三方海中公園が指定２０周年（昭和４６年１月２２日指定）を迎えたことを機にスノーケリングによる海中自然観察会・マリンセミナーを開催しました。好評だったこの行事は、その後平成１０年まで続けられ、その過程で福井県海浜自然センターの整備が進められました。

スノーケリング観察会は元々、環境省所管の公益法人（財）海中公園センターが、海中公園の自然とのふれあいを国民に普及するため、２０年程前から主に太平洋側の各地（ex.和歌山県の串本海中公園）や沖縄などで開催してきたもので、福井での開催に当たっては、県内に指導者が少ないため、海中公園センターの藤原先生の計らいで、県外から多くの方々が応援に駆けつけて下さいました。

第１回マリンセミナー（1991.9 烏辺島）

その中でも、８年間毎年お世話になったのが、南研こと南伊豆海洋生物研究会事務局長の窪田茂樹さん（浜松市在住）です。マリンセミナーの成功には、窪田氏のユニークなスノーケリング講義が欠かせませんでした。南研は、窪田氏と昨年まで会長だった元筑波大・下田臨海実験センター長の横浜康継教授（海藻が専門）が中心となって設立した会で、伊豆半島南端の南伊豆町中木や下田を活動拠点としています。関東・東海地区だけに留まらず、全国から海好きの色々な職業の方々が会員になっていて、近年その活動は多方面から高く評価されています。現在の会長は、アマモなどの海草が専門の相生啓子先生（東京大学海洋研究所）です。

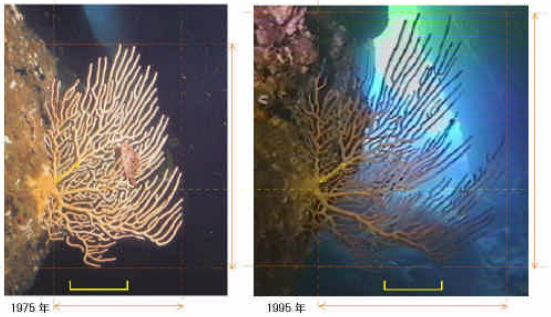
私に水中ビデオの撮影・編集テクニックを伝授してくれたのは、南研の彌冨利知さんです。私と同い年で、東京の阿佐ヶ谷でビデオソフトの製作会社をやっている社長さんです。得意の釣り関係のビデオ製作では、全国をロケに走り回っているそうです。彌冨さんが私を水中ビデオの世界に引きずり込んでくれたお陰で、ここ５～６年の間に県内各地のかなりの海中映像が記録できました。

・刻々と変化する海中公園の自然

常神半島は、良好な自然環境が今も維持されているため、海中公園指定当時等のトチノ島の写真を見ても、一見、現在とそれほど変わらないように思えます。

では、海中の自然はどうでしょうか？1995 年に三方海中公園でビデオ撮影した映像の中に、沖縄の風土記社が 1975 年に出版した図書「日本の海中公園」に載っている写真と同じ個体の生物の映像がありました。

フトヤギ（刺胞動物門：花虫綱八放サンゴ亜綱）の成長



1975 年　　1995 年

（図書「日本の海中公園・１９７５風土記社発行」の海中写真より）　（夏梅撮影の海中ビデオより）

この生物は、宝石サンゴと同じ仲間に分類されるフトヤギの１種です。２つの写真を見比べると、約２０年間での成長ぶりが伺われますが、この成長の度合いを皆さんはどう感じられますか？この生物は、薄暗い岩陰で何年かけてここまで成長したのでしょうか？

次の写真は、1993 年に撮影したフトヤギです。しかし、翌々年には左の巨大なフトヤギは影も形も無くなっていました。何十年もかけてやっとここまで成長してきたはずなのに、この時はとてもショックでした。潮流の早い洞窟の入り口にあったため、冬の波浪で岩から引き剥がされたのでしょうか？一方、洞窟の内部では右の写真のように新たな定着が見られ、今後の成長が期待されます。

フトヤギの一種（1993.8 三方海中公園）

大 群 生

新 た な 個 体

・海中公園指定３０周年

３０周年を迎える三方海中公園は、食見地区に念願の海の自然体験拠点施設がオープンし、夏季には観察会が盛況です。今後ソフト・ハード両面の益々の発展が期待されます。

一方、海中の自然環境に目を向けると、１号地区（常神・トチノ島）では岩肌の付着生物相が年々単純化し（クロガヤという刺胞動物が目立ってきている）、３号地区の烏辺島周辺では、魚影が年々薄くなっているように思えてなりません。今後、海中の自然環境を時折チェックし、いつまでも美しい海中公園が楽しめるよう、皆さんのご理解ご協力をお願いいたします。

なお、「福井の浅海」と題したささやかなホームページを公開していますので、ご覧下さい。アドレスは http://www5a.biglobe.ne.jp/~k-marine/ です。